

【趣意書「蛭沼寿雄先生遺稿『新約本文のパピルス』（Ⅲ）刊行事業募金のお願い」】

極暑の候、皆様にはいっそうご活躍のこととお慶び申し上げます。

さて、私たちの敬愛する蛭沼寿雄先生が天に召されて 8 年半になろうとしています。蛭沼先生は生前、言語学と新約本文学の領域において多大な研究成果を挙げられ、多くの著書・論文を残されました。

蛭沼先生は、関西学院大学文学部を定年退職された 1982 年以降も精力的に研究活動を展開し、晩年は病気と闘いながら執筆を続けられました。中でも力を入れておられたのが『新約本文のパピルス』刊行です。新約聖書のパピルス写本を 1 番から番号順にすべて、可能な限り写真版も入れつつ紹介していくというこの壮大な企画は、第Ⅰ巻が 1994 年、第Ⅱ巻が 1998 年に出され、後は第Ⅲ巻を残すのみとなっていました。パピルス 47 番から（当時もっとも新しかった）100 番までを収録する予定だったこの巻はしかし、もう少しで完成というところまで漕ぎつけながら、先生が他界されたため未刊のままに終わっています。

先生が遺された第Ⅲ巻の原稿を、関西学院の関係者がこのたび改めて整理したところ、全体の半分はすでに印刷可能な状態になっており、残りの半分も、一部を除いて手書き原稿が揃っていることが判明いたしました。日本ではもちろんのこと、欧米でもほとんど類書を見ないこの業績をこのまま埋もれさせることはあまりにも惜しいと考えた私たちは、この第Ⅲ巻をなんとしても刊行し、天に召される間際まで、病気のために震える手で原稿を書き続けられた先生のお気持ちに伝えたいと考えた次第です。第Ⅰ巻・第Ⅱ巻は、日本語の書物でありながら、日本語を解さない読者も利用可能なように工夫されており、実際に海外の研究者から多くの賛辞が寄せられ、「蛭沼」の名前を改めて世界に知らしめました。その賞賛と期待の声に応じるためにも、この世界的業績をぜひとも完成させねばなりません。

しかし、『新約本文のパピルス』は特殊な専門書であり、大きな売れ行きは見込めません。第Ⅰ巻と第Ⅱ巻は、蛭沼先生ご自身が多額の出版費用を負担されたおかげで陽の目を見ることができました。このたびの第Ⅲ巻にもやはり出版諸経費が必要ですが、私たちはこれを募金の形で準備することにいたしました。

裏面の要領で募金へのご協力を仰ぎたいと思います。この書物が持つ大きな意義をご理解くださり、出版の実現に力を貸していただけますよう、心よりお願い申し上げます。

2009 年 8 月

（呼びかけ人）

荒井 献（東京大学・恵泉女学園大学名誉教授）

杉原左右一（関西学院大学学長・商学部教授）

土戸 清（日本新約学会会長、東北学院大学名誉教授、大森めぐみ教会牧師）

津村春英（関西新約聖書学会会長、大阪キリスト教短期大学教授）

山内一郎（関西学院大学名誉教授・前理事長）

吉岡治郎（神戸海星女子学院大学名誉教授）